

7 野菜の病害虫防除

(1) 主な病害と対策

病 名	病 気 の よ う す	被 害 野 菜
苗 立 枯 病 青 枯 病	小苗が急に地ぎわからくびれて倒れる 収穫前に急にしおれ始める	ほとんどの野菜 トマト、ナスなど
つ る 割 病 軟 腐 病 黒 斑 病 べ と 病 炭 疽 病	つるが急にしおれ、地ぎわからヤニをだす 地ぎわから根にかけて腐って軟化する 葉に同心円状の黒い斑点が出る 葉脈に囲まれた多角形の病斑が葉に現れる 葉に黄白色の円い斑点ができ、のちに淡褐色の粘質物に覆われる	ウリ類 ハクサイなど キャベツなど ウリ類など キュウリ、スイカなどの果菜類
疫 う ど ん こ 病	葉が黒く腐って白いかびを生じる 葉や茎の表面に点々とうどん粉をふりまいたような病斑ができ、ひどくなると、葉全面が白粉に覆われ、生育が悪化する。	果菜類など キュウリ、メロンなどのウリ類、ナス、トマト
灰 色 か び 病 (ボトリチス病)	咲き終わった花びらや葉に灰色をしたかびがたくさんつき、ふれると胞子が飛び散る	ナス、トマト、キュウリなど
菌 核 病	葉や茎の地ぎわに湿った褐色の病斑ができ、温度が高いときには表面に白い綿状のかびがはえ、ネズミの糞ぐらいの菌核をつくる	レタス、ミツバ、キュウリ、ナスなど各種野菜
さ び 病 ウ イ ル ス 病 (モザイク病)	葉にさび状の病斑が現れ、胞子が多くできる 葉にモザイク状が現れたり、葉がちぢんだりする。黒褐色の輪紋や斑点ができる	ネギに多い ほとんどの野菜に出る
根 こ ぶ 病	根がふくらんで、コブ状になる。葉は黄変	アブラナ科の野菜
つ る 枯 れ 病 赤 色 斑 点 病	つるに淡褐色の病斑ができる 葉や茎に小さく赤っぽい斑点が現れる	果菜類 マメ類
そ う か 病	イモに割れ目ができ、病斑の中央がへこむ	イモ類
褐 紋 病	葉、茎、果実に円形の病斑ができる	果菜類
黒 星 病	黒褐色の病斑が現れ、ヤニが出る	キュウリ
白 絹 病	地際部に白色絹糸状のかびを生じ、根が枯れる	各種野菜(マメ類)

(2) 主な害虫と対策

害 虫 名	害 虫 の 特 徴	加 害 部	被 害 野 菜
ア オ ム シ	モンシロチョウの幼虫で、成長すると体長3cmほどになる	葉、茎	キャベツなど、アブラナ科の野菜
ヨ ト ウ ム シ	ヨトウガの幼虫が、成長すると黒褐色がかり体長4cmほどになる。	葉、茎、果実	葉菜類、果菜類、根、菜類
ハ ス モ ン ヨ ト ウ ネ キ リ ム シ	背中に白い帯状模様がある カブラヤガの幼虫	茎	イモ類、葉菜類 ナス、キャベツ、ハクサイなど
テ ン ト ウ ム シ ダ マ シ	体長6mmぐらいの半球形の虫で、背中に黒い斑点がある	葉	ナス、パレイショ、ピーマンなど
ズ イ ム シ ナ メ ク ジ	メイガの幼虫 腹面の伸縮によって歩く	葉	フキ、ショウガ
ウ ス カ ワ マ イ マ イ	湿気の多いときに活動する	葉、果実	各種野菜
コ オ ロ ギ ダ ン ゴ ム シ	体長20mm、全体黒褐色 多数の環節からなる	苗	各種野菜
ア ブ ラ ム シ	モモアカアブラムシが代表的。ウイルス病を媒介する	芽先、葉	ほとんどの野菜
ハ ダ ニ	繁殖力がおう盛で、すぐに世代を繰り返す	葉	ナス、ウリ類、インゲンマメなど
ア ザ ミ ウ マ	スリップスと呼ばれ、体長が1mm以下の小さい虫	葉、花	ネギ、ウリ類、マメ類
セ ン チ ユ ウ	ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウなど、根に寄生するごく小さい細長い虫	根	根菜類、ウリ類、ナス、トマトなど
ヒ メ コ ガ ネ	コガネムシの一種	葉、根	マメ類
キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	黒に白の縦縞のある甲虫	葉、根	アブラナ科植物
コ ナ ガ	淡緑色、小型のアオムシ	葉	アブラナ科植物

発 病	伝染経路	予 防 法	薬 剤 の 使 い 方
5～9月	土 壤	無病土を用いる	タチガレン液、リゾレックス水和剤
6～8月	土 壤、 接 触	連作回避と接ぎ木、抵抗性品種	クロールピクリン
6～8月	土 壤	輪作と接ぎ木、抵抗性品種	被害株を焼き捨てる
排水不良時	土 壤	カリ肥料を多用	キノンドーを散布する
梅雨期など	土 壤	連作を避ける	銅水和剤を散布する
高温多湿時	空 気	追肥を怠らない	リドミルMZ水和剤
春秋の低温ぎみのとき	空 気、 種	無理な早づくりを避ける	病葉を取り除き、ジマンダイセン水和剤を散布
雨あがり時	水	連作を避ける	リドミルMZ水和剤、オーソサイド水和剤
5月、9月、乾燥すると出やすい	空 気	ハウス内では、乾きに注意。メロンは、抵抗性品種を利用	トリフミン水和剤を散布する
5～6月	空 気	畑の排水と、ハウスの換気不足に注意	トップジンM水和剤、スミレックス水和剤を散布
5～6月、9～10月の多湿時	土 空 気	連作を避ける。発病後、病株の整理を完全にする	発病初期なら、スミレックス水和剤、ダコニール1000を散布
春、秋	空 気	密植を避ける	ジマンダイセン、バイレトン水和剤
周年	アブラムシ 接 触	苗床には寒冷紗を利用。芽かき時に注意	媒介するアブラムシ類の駆除。周囲の雑草にも気を配る
8～9月	土 壤	輪作と酸性土壌の改善	バスアミド微粒剤、フロンサイド粉剤
5～8月	空 気、 種	接ぎ木する	トップジンM水和剤、ジマンダイセン水和剤
3～5月	空 気	圃場の排水をよくする	銅水和剤、ビスダイセン水和剤
初夏、秋	土 壤	種を消毒する、土壌消毒を行う	アタッキン水和剤を種にも消毒に用いる
5～7月	空 気、 種	初期の病葉の除去	銅水和剤を散布
春、秋	空 気	初期の被害部の摘除	ジマンダイセン水和剤
6～7月	土 壤	連作を避ける	被害株を焼き捨てる

被 害 特 徴	期 間	防 除 法
葉脈だけを残して、網目状に食い荒らす	4～10月	虫が小さいうちに、DDVP乳剤を散布する
昼間、根元の土中にもぐり込んでいて、夜になると活動する	4～6月 8～10月	幼虫時に捕殺するか、DDVP乳剤を散布。成虫は夜、電燈をつけるか、日中株元から探りだして捕殺
夜、株元からはいだして茎を食害する	4～6月 8～10月	根元を捜して捕殺する。ネキリトン粒や、カルホス粉剤を施用
葉を食害する	6月 9月	捕殺するか、ダイアジノン乳剤、ディブテレックス乳剤で防除する
葉に食い入る	6～7月	パダンSG水溶剤の散布をする
茎、葉、花をなめる	6～9月	ナメキール、ナメクリーンなどで誘殺する
幼苗を食害する	7～10月	周囲の雑草整理。大切な苗は箱まきし、寒冷紗で囲う
幼苗のほか根元も食害	4～10月	
芽先や葉裏について、汁液を吸収する	5～10月	出始めに手ですりつぶす。モスピラン水和剤やDDVP乳剤1500～2000倍液を散布
葉が黄変し、落葉する。汁液を吸収する	夏の乾燥期 7～8月	ダニトロンフロアブルなどを交互にかける
葉について汁液を吸収する	春～夏の乾燥期	アドマイヤー水和剤、アグロスリン乳剤を散布する
根に小さなコブがたくさんついたり、根のところどころが褐変する	高温乾燥期 6～9月	堆肥を十分に入れ、乾燥を防ぐ。イネ科のトウモロコシなどを作付けする。マリーゴールドを全面的につくる。ネマモール乳剤の散布、ネマトリン粒剤土壌混和
成虫が葉を食害。幼虫は土中で根を食害	7～8月	マラソン乳剤を散布。ダイアジノン粒剤を土壌に施用。成虫は捕殺する
成虫は葉、幼虫は根	5～7月	ダイアジノン乳剤、DDVP乳剤散布
葉裏の肉質部を食害	4～12月	ランネット水和剤、アグロスリン乳剤散布